

第 166 回森で遊ぶ会（井川）実施報告書

〈紅葉の井川湖畔廃線小道を歩こう〉

日時： 令和元年 11 月 6 日（水） 8 時 00 分～17 時 00 分

場所： 静岡市葵区井川地区 井川ダム～廃線小道～夢の吊り橋～井川大仏

参加者： 男性 2 名 女性 36 名 合計 38 名

担当幹事： 高橋 小嶋

アシスト会員： 青野 内野 大石 越智 小久保 佐野 中川

《概要》

朝から雲一つない晴天に恵まれた観察会となった。大型バス定員ギリギリの 47 名（インストラクター含む）を乗せたバスは一路井川ダム堰堤へと進む。途中の富士見峠展望台からは南アルプス南部の聖岳、赤石岳、荒川岳などの雄峰が望まれた。多くの参加者は紅葉を期待していたと思われるが、今年のリノ葉は例年に比べ 10 日から 2 週間ぐらゐ遅れていて見ごろにはまだ早かった。これも“地球温暖化”の影響なのかと心配する参加者もいて『今後温暖化が進むとお正月頃が紅葉の見ごろとなるのでは！？』といった声も聞かれた。

ダムサイトでバスを降り湖畔の廃線小道で自然観察をしながらゆっくりと歩いた。そこでは紅葉のメカニズムや、日本の紅葉がヨーロッパなどに比べて樹種も多く特に美しいことなども説明した。湖側の斜面にはおよそケヤキらしからぬ枝ぶりのケヤキがあり葉っぱを一枚採ってクイズをした。『この葉っぱはな一んだ？』ベテランの会員からはすかさず『ケヤキ！』と正解が返る。でも確かによく見かけるケヤキの樹形はホウキを逆さにしたような形だったが、こんな樹形もあるのだと皆さん感心した。

次に参加者数人から『何か獣臭のようなにおいがするよ』と声がかかったので辺りを見渡すとクサギがあったので葉っぱをちぎって嗅いでもらおうと『う一これだ、このにおいだ！』やはり犯人はクサギでした。お歳をめされているにもかかわらず鋭い嗅覚をお持ちの様子に感心した。今度はインストラクターからクイズ、『この臭い何かに似てない？』ミズメの小枝を折って臭いを嗅いでいただくと『そうだ、サロメチールの臭いだ』。もう一つ、落ち葉が良い香りのするカツラの木はすでにかなり前に落葉してしまったらしく独特のカaramelの香りはほとんどしなかったのが残念だった。

夢の吊り橋手前の林道ではサルナシがあり、サルナシの果実にはたんぱく質分解酵素がありサルや、クマなどの哺乳類が一度にたくさん食べられないように工夫して種子を分散配布してもらおう、植物の生き残り戦略についても話した。参加者は興味を持ってメモを取りながら熱心に聞いてくださった。説明する側もうれしくなった。他にも蔓植物のノブドウ、アオツツラフジの果実やヤマノイモのムカゴ、人目をひくムラサキシキブやクサギ、翼果が連なったウリカエデ、文字通り房状になったフサザクラなども見られた。特にフサザクラはベテランの方も『初めて見た』と喜んでくれた。

今回の観察会は、紅葉はイマイチであったがリスが食べたであろうクルミの殻が落ちていたり、動物による種子散布（植物の生き残り戦略）の話や、色々な臭いを嗅いでもらったり、秋ならではの果実、種子も見られて、なかなか奥の深い“井川廃線小道の散策”であったと思う。「なにせこの辺りは“オクシズ（静岡の奥の意味）”と言って静岡市が PR しているんだも一ん!!」帰りには参加者の皆さんは、「アルプスの里」で山の恵みをたくさん買って帰りましたよ。そんなわけで皆さん満足してお帰りになったと思われた。

※次ページにスナップ写真掲載しました。

以上



バスは満員



南アルプス南部の雄峰(富士見峠より)



井川湖畔の紅葉はまだまだ



ツルリンドウの果実が赤く美しい



廃線小道の散策に出発



夢の吊り橋スリル満点



堂平駅跡で昼食



“アルプスの里”でお買い物、臨時のレジに行列



井川大仏への登りはきつかった!